いう語を作り出したのは，まさに古代アテネの哲学者たちであった。雨宮教授は，現在を遡ること二千数百年の昔に聴衆を誘い，経済思想が生まれる源流を明らかにされた。雨宮教授の講演は，古代アテネの経済に近代と共通な点を重視する「形式主義者」と逆に異質な点を強調する「実質主義者」との対立のなかで，バランスの取れた見方を提供するとともに，古代ギリシア人たち（クセノフォン，プラトン，アリストテレス）の経済思想が倫理思想・政治思想と密接に結びついていたことを示すものであった。多くの聴衆は，そこに一人の現代経済学者が，かつて高田保馬がそうであったようなモラリストとしてあらわれ，経済思想の根元を探ろうとしていることに共感した。

当日の講演は，時間の不足から，配布された講演要綱の半分程度で終わらざるをえなかった。しかし，幸いなことに，雨宮教授は，講演の原稿の印刷・公表の許可を講演企画者の私に与えられた。本誌に掲載するものがそれである。

最後に，この講演会が講師の雨宮教授はもちろんのこと，高田家のみなさま，高田門下の諸先生のご好意とご理解の上に実現したことを記して，謝意を表明いたします。

あ い さ つ

森 棟 公 夫

研究科長・学部長の西村が体調が悪くご挨拶ができませんので，私森棟が代理をつとめさせていただきます。本日は，本学にとって偉大な先達である高田保馬先生を記念して開く講演会でありますので，まず高田保馬先生を紹介し，その後に記念講演をしていただく雨宮健スタンフォード大学教授の紹介をいたします。

配布された資料をごらんください。高田保馬先生の年譜や主要著作がありますがそのなかにシュンペーターが本学に来られたときの記念写真も入っています。シュンペーターの横に居る和服の方が高田先生です。

シュンペーター来学記念写真（1931年）
前列右から３人目が高田，
４人目がシュンペーター

学士院会員の根岸隆先生は，最近の論文のなかで，もし20世紀の経済学史を書く際にシュンペーターがとりあげられるのであれば，高田保馬やその後の柴田敬，青山秀夫などの京都の経済学者も取り上げられる価値があると書かれています*。

高田保馬先生は明治16年に佐賀県小城郡三日月村でお生まれになりました。旧制の第五高等学校を出られ，明治40年に京都帝国大学に入学されています。最初は社会学を専攻され，文学部の米田庄太郎先生に師事されました。分業や階級について研究され，人間の結合のあり方に注目する観点から，『社会学原理』や現在でも読まれている『社会学概論』などを公表されました。しかし，社会学は経済学と隣接した学問分野でありますから，河上肇を中心とした経済学読書会などにも出席され，経済学も研究されました。社会学の理論的研究が一段落ついた頃から経済学の理論研究を本格的に開始され，一橋大学，九州大学で教えられたあと，昭和４年に京都大学に戻ってこられ，以後定年で退官されるまで15年間にわたって本学で経済原論を教えられました。

先生は全５冊になる大著『経済学新講』を昭和初期に刊行され，一般均衡理論を取り入れて日本の経済学の水準を引き上げられました。さらに効用にもと

＊　根岸　隆「近代経済学の京都学派」（倉林義正・香西泰・長谷川かおり編『現代経済思想の散歩道』日本評論社，2004年）所収。

づく経済理論では現実は説明できないとして，人々はそれぞれに力の欲望をもっていて，それにもとづく行動のなかから社会的勢力という現象が生まれるとして，社会的視野をもった経済学を構想されました。高田先生は京都大学で柴田敬，青山秀夫といった理論家を育てられ昭和19年に京都大学を退官されました。その後，民族研究所の所長をされました。終戦後には当時の経済学部の教授全員が辞表を提出するというようなことがありましたが，先生も教職適格審査によって一時教職を離れざるをえないという事態が生じました。その後，文部大臣によって原審破棄の裁定を受けて教職に復帰され，大阪大学の経済学部の確立，また同大学の社会経済研究所の創設に奮闘されました。1965年には文化功労者としての栄誉を受けられ，1972年の２月になくなられました。

本日は高田先生のご三女の高田千津子さまもおいでいただいていて，わたしたちにとって大いにはげみになっています。また，高田先生をご存知の方は少なくなっているわけですが，本日は京都大学名誉教授の市村眞一先生にもご来席いただいております。市村先生は，東南アジア研究センターで長くご研究されたあと，大阪国際大学の副学長や，北九州市の国際東アジア研究所の所長をされ，いまも北九州市でお仕事をされています。まず市村先生に，高田先生の人となりをご紹介たまわりたいと思います。

高田保馬先生の人となり

市村眞一

高田保馬先生のことを直接存じ上げている方はもうほとんどおられなくなり，私が生き残っている最後の一人になりそうですので，簡単にお話させていただきます。

高田保馬先生はただいまのお話にありましたように，私には３つの側面をもった偉大な学者であったと思われます。第１は社会学者で，第２は経済学者，そして第３は詩人としてであります。そのいずれの面におきましても，第１級の業績を残されました。社会学の面におきましては，『社会学原理』という非